



2008～09 年度  
国際ロータリー会長

李 東 建

# Weekly Report Niigata



2008～09 年度  
新潟ロータリー会長

柴 田 史 郎

新潟 RC 7 月第 3 例会 (2008.7.15 No.2761)

## (1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

### (2) 柴田 史郎会長挨拶

昨年度の卓話のうち国際シリーズとして 7 人のゲストスピーカーによる卓話の内容を前プログラム委員長の竹石松次さんが「世界との接点を求めて」として小冊子にまとめてくださいました。私が一番印象に残ったのは、川崎善郎さんの BSN アイネット所属の中国人社員王 悦さんのものでした。論旨は人間皆同じ、国や宗教・思想が違ってても人のまごころが通じ合ったとき国際理解・友好・親善が期待できる。時間はかかっても人と人との交流こそがたいせつである。一見何の変哲も無い主題のようですが、この様なことを 8 年の異国での生活体験からの自分の言葉で (借り物でなく) 人に語りかけることができるということは大変なことではないでしょうか。

馬場信彦ガバナーが「ロータリーの綱領」を読み返して欲しいと言っておられます。私は綱領のエッセンスはまさに王 悦さんの論旨に重なり合うものではないかと思う次第です。皆様は「ロータリーの綱領」をどのように読み解かれますでしょうか。

次週は 2560 地区ガバナー馬場信彦氏が当クラブへ公式訪問されます。

### (3) 退会挨拶

#### 日本銀行新潟支店支店長 高橋 英行君

7 月 14 日に本店金融研究所への発令がありました。3 年 5 ヶ月の長きに亘り、ロータリーの皆様には大変お世話になりました。紙切れ 1 枚の転勤命令に人生を翻弄される切ないサラリーマンの運命を、これほど恨んだことはありません。

17 年 2 月、中越地震の余韻覚めやらぬ新潟に着任、大停電、18 年豪雪さらには中越沖地震と相次ぐ災

害に見舞われた在任期間でしたが、復興への凄まじいパワーを拝見し、新潟の底力を見せつけられた思いでした。

私が新潟に着任した際、ある転勤族の方から、「転勤者は 2 度泣く」というお話をお聞きしました。新潟への発令で冬のつらさを思い 1 度目の涙、去るに当たり新潟からの離れ難さに 2 度目の涙。と言う事だそうです。

今、新潟での生活がカウントダウンに入り、この 2 度目の思いが日々募ってきます (私の場合 1 度目の涙はありませんでした)。家族も余程新潟が気に入ったのか、「東京に戻るな。新潟に永住しろ。」と言っています。こうした思いに家族共々させて頂いた「新潟」に心から感謝しています。

皆様へのご恩返しのお気持ちを込め、東京に戻りましても新潟のサポーターとして応援を続けていきたいと思っています。

改めて、お世話になりました。お元気で。

### (4) 委員会報告

#### 樋熊昨年度米山奨学生カウンセラーより瀧継偉さんのお便り紹介

メールいただき、ありがとうございました。返信が遅くなり、すみませんでした。新潟 RC 会員の皆様とお別れして、あっという間に 3 ヶ月過ぎました。帰国してから、私はすぐ元の勤務病院の黒竜江省立病院に戻り、出勤しました。忙しい毎日が続いていますが、だいたい落ち着きました。

この前の四川省の大地震があつて、うちの病院も医療チームを派遣しています。私はいつでも出発できるように準備してあります。地震でけがをした人々に何か手伝おうと思っています。会員の皆様は、お元気ですか。日本での留學生活は大変お世話になりました。感謝いたします。よく新潟での生活、先生たちとの集まりを思い出しています。わざわざ安否をお気遣いいただきまして、ありがとうございます。また樋熊先生に連絡して、報告いたします。

(5) 会員スピーチ

「B級グルメのすすめ」

痛風歴28年 佐藤 紳一君



7月22日の例会予定

馬場信彦ガバナー公式訪問

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>